

様式第3号(第9条関係)

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	令和6(2024)年度第1回みよし市まち・ひと・しごと創生会議		
開催日時	令和7(2025)年2月12日(水) 午前10時から午前10時45分まで		
開催場所	みよし市役所 6階601・602会議室		
出席者	(出席者) 天野好浩、岩田信男、伊藤尚徳、加藤哲司、近藤正樹、坂田浩己、曾根 篤、瀧 稔、千田圭太、野々山清、林 潮、東 翔天、米本倉本 ※敬称略 (みよし市)村田副市長 深谷経営企画部長、岡田経営企画部参事、城総務部長、山田福祉部長、加藤こども未来部長、原田市民経済部長、成田都市建設部長、富田教育部長、新美教育部参事 (事務局)近藤経営企画部次長兼企画政策課長、加藤副主幹、清水専任副主幹、岡田主事		
次回開催予定日	令和7(2025)年7月頃		
問合せ先	経営企画部企画政策課 担当 岡田 電話番号 0561-32-8005 ファックス番号 0561-76-5021 メールアドレス kikaku@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	・議事録全文 ・議事録要約	要約した理由	
次第	【議題】 1 「みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実績検証について 【報告事項】 1 みよしの地方創生に関する報告		
典 礼 近藤経営企画部次長	定刻となりましたので、ただいまから、第1回みよし市まち・ひと・しごと創生会議を開催いたします。私は、典礼を務めさせていただきます経営企画部次長の近藤と申します。よろしくお願いいたします。ここからは着座で失礼します。 本日会議傍聴者はありませんが、本会議はみよし市附属機関の設置及び運営に関する要綱に基づき公開対象の会議となっておりますので、あらかじめご了承くださいますようお願いします。 本日の創生会議につきましては、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和5年度の実績の検証及びみよしの地方創生に関する活動報告を行います。 それでは、議事に入りたいと思います。要綱第4条第1項の規定により、会議の進行は経営企画部長が行うこととなっておりますので、進めさせていただきます。		

深谷経営企画部長	経営企画部長の深谷です。よろしくお願いいたします。 それでは、お手元の次第に沿いまして議事を進めさせていただきます。 まず議題の「(1) みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について」事務局から説明をお願いいたします。
事務局	企画政策課の加藤と申します。議題「(1) みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について」私から説明させていただきます。以降、着座にて説明させていただきます。 議題(1) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績検証について、説明をさせていただきます。 本市の「第2期総合戦略」は、令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間として、基本目標として、①安心して子育てできる環境づくり、②暮らしたいと思える環境づくり、③誰もが健康に暮らせる環境づくりの3つの基本目標を掲げ、基本目標のそれぞれに、評価指標(KPI)を設定するとともに、さらに細分化して、基本的施策とその具体的な取組内容及びその評価指標を設定しています。 資料1をご覧ください。令和5年度は第2期総合戦略の3年目の年となっており、こちらの資料は各課からの実績報告をもとに作成しています。また、確認可能な指標につきましては、本年度9月末現在での速報値、若しくは令和6年度末の見込値を掲載しています。 今回は、本年度の新たな事業と、主に、目標値と実績値が大きく異なる評価指標(KPI)について抜粋して説明させていただきます。 資料1の1ページをご覧ください。基本目標のひとつめ、「安心して子育てできる環境づくり」です。 若い世代が安心して子育てできるまちを目指すため、「安心してこどもを産み・育てることができる環境をみんなで築く」をスローガンに掲げ、「合計特殊出生率(しゅっしょうりつ)」と「出生数(しゅっしょうすう)」の増加を目指していきます。 まず、評価指標「1－1 合計特殊出生率」については、1年遅れでの計算となるため、把握できる最新の数値は令和4年分となります。令和4年の合計特殊出生率は1.48人と昨年よりも低下する結果となっていますが、国及び県と比較すると高くはなっています。 「1－2 出生数」については、令和元年度以降増減を繰り返しながらもゆるやかな減少傾向となっています。令和5年度実績については、464人と前年度よりも減少しており、令和6年度についても、9月末までの実績が216人となっていることから、令和6年度はさらに減少することが見込まれています。今後出生数を増加させる対策が必要となってきます。 続いて2ページをご覧ください。基本目標1の「基本的施策① 結婚・子育てに関する支援」です。 取組内容欄には、第2期総合戦略に記載されている取組内容を記載し、それぞれに計画開始年度である令和3年度以降に新たに取り組んできた事業を記載しております。これらの事業を推進することで各評価指標の向上を目指していきます。 令和6年度は、新たな事業として、高校生世代の医療費無償化、子育て応援アプリ新規導入、ペアレントトレーニング及びプレコンセプションケアの実施、次ページ3ページに移りまして、保育園及び幼稚園の給食費無償化、放課後こども教室の拡大、私立小中学校・特別支援学校などの児童生徒の給食費支援などを実施しています。 続いて4ページをご覧ください。「1－3 保育園待機児童数」は、令和4年度実

	績の55人から令和5年度は42人と減少し、令和6年9月末現在で35人となっており、減少傾向にあります。保育士を確保しつつ、特に希望が多い0～2歳児の乳幼児の定員数を拡充した効果があったと考えられます。 「1－4みよびよ登録者数」とは、子育て情報を発信する子育て情報ナビみよびよの登録者数となります。令和5年度実績が207人と大きく減少していますが、こちらは令和6年度からみよし市子育て応援アプリ「みよびよ！」にリニューアルすることとなったため、一時的に減少しました。令和6年9月末では1,279人の登録者数となっており、アプリには母子健康手帳機能等の機能もついていることから、今後も登録者数は増加することが見込まれます。 5ページをご覧ください。基本目標1の「基本的施策② 学校教育の充実」です。 本年度は、新しく部活動指導地域移行業務委託を開始しています。 6ページをご覧ください。「1－7学校が楽しいと思う児童の割合」及び「1－8学校が楽しいと思う生徒の割合」については、両指標とも令和5年度実績は目標値に達しておりませんが、児童の割合については、増加傾向で推移し、少しずつ目標値に近づいています。また、生徒の割合については、令和4年度実績からは大きな改善が見られます。 7ページをご覧ください。「1－11不登校児童出現率」及び「1－12不登校生徒出現率」については、令和5年度までの上昇傾向から、令和6年度は減少傾向にあり、目標値に近づいています。 続いて、基本目標1の「基本的施策③ 仕事と生活の調和に関する支援」です。子育て世帯が仕事と子育てを両立し、子育てに喜びを感じることができる環境づくりを進めます。 8ページをご覧ください。「1－13産後ホームヘルプの利用者数」及び「1－14産後ケアの利用者数」について、令和3年度に減少後、回復傾向にあり、令和6年度見込みでは目標値を上回ることが見込まれています。 9ページをご覧ください。「1－16ファミリーサポートセンターの利用者数」です。ファミリーサポートセンターはこどもの送迎や預かりなど、子育てを助けてほしい人と子育てのお手伝いをしたい人をつなぐ子育てを支援する組織です。令和3(2021)年度以降利用者数は200人程度と、ほぼ横ばいの状態が続き、目標値との乖離が大きくなっています。 「1－17放課後児童クラブ待機児童数」については、令和5年度実績で0人となっていました。令和6年9月末時点では、43人となっています。こちらについては、例年夏休みだけの利用を希望される人が、本年度は、夏休み以降も継続して利用したいという希望が多かったため、待機児童数が多くなっているとのことです。10月末時点では20人と減少しており、本年度末には5人程度まで減少すると見込まれています。 続いて、資料10ページをご覧ください。基本目標の二つ目、「暮らしたいと思える環境づくり」です。 多様な世代が安全・安心にいつまでも暮らしたいと思えるまちを目指し、「住んでみたい、住みやすい環境をみんなで築く」をスローガンに掲げ、「転入・転出人口比率」と「生産年齢人口比率」の増加を目指していきます。 評価指標1の転入・転出人口比率については、令和5年度は令和4年度と比較して減少しましたが、101.8%と転入超過を維持しています。指標2の生産年齢人口比率については、令和2年度以降、ほぼ横ばいで推移し、減少を見込んでいた目標値からは大きく上回っています。
--	---

	資料11ページをご覧ください。基本目標2の「基本的施策① 多様な世代を誘引する仕組みづくり」です。 本年度新たに宅配ボックスの購入費補助、市内事業所等における電気自動車等充電設備設置費の補助等を実施しています。 資料12ページをご覧ください。「2-4 起業・創業件数」は、令和5年度実績は減少しましたが、令和6年度9月末時点ですでに昨年度実績を上回っており、令和6年度は目標値を上回ることが見込まれています。「2-5 就労者数」については、令和5年度実績は、前年度実績を上回りましたが、増減を繰り返しており、令和6年度見込みは目標値を若干下回ることが見込まれています。 続いて資料13ページをご覧ください。基本目標2の「基本的施策② 公共交通ネットワークの確保」です。 本年度は昨年度実施したおでかけタクシー実証実験のフォローアップ調査、Terra Charge 株式会社との協定による公共施設への充電設備設置を行っています。 14ページをご覧ください。評価指標「2-6 公共交通全体の年間利用者数」は目標値を下回っているものの、「2-7 さんさんバスの年間利用者数」は令和4年の路線再編から上昇傾向にあり、目標値を上回っています。 同じく14ページ、基本目標2の「基本的施策③ 安全・安心なまちづくり」です。 本年度は避難所環境に対応できるトイレトレーラーを新たに購入しました。また、次ページへ移っていただいて、防犯カメラ設置補助や通学路防護柵の設置を行っています。 資料16ページをご覧ください。「2-9 防災訓練の参加率」は、目標値には大きく届いていないものの、令和3年度以降回復傾向にありましたが、令和6見込みでは低下することが見込まれています。「2-12 防犯パトロール隊員数」については、コロナ禍以降減少が続いており、目標値を大きく下回っているため、今後地域住民の活動を活発化させる取組が必要となります。 続いて資料17ページをご覧ください。基本目標2の「基本的施策④ 魅力と活力のあるまちづくり」です。 本年度は新たに、「みよし市メタバース空間の構築」、「給食deSDGsフェスタの開催」、次ページでは、「みよし音楽祭の開催」、「MIYOSHI ヒト・コト発掘体験会の開催」などを実施しています。 続いて、資料20ページをご覧ください。基本目標の三つ目、「誰もが健康に暮らせる環境づくり」です。 市民一人一人が健康で生涯を通じて活躍できるまちを目指し、「こどもから高齢者まで主体的な健康づくりができる環境をみんなで築く」をスローガンに掲げ、「健康寿命」「成人のスポーツ実施率の割合」の増加を目指していきます。 指標3-1と3-2の健康寿命については、男性は令和4年度以降上昇傾向です。女性については、目標値を上回っているものの、令和3年度から下降傾向にあり、今後健康寿命を延ばすための政策がより一層必要となってきます。 指標3-3 成人のスポーツ実施率の割合についても、昨年度に引き続き実施率が横ばいであり、目標値を下回っています。国と比較しても本市の実施率は低いいため、運動の大切さをPRするとともに、運動しやすい環境を整えることが必要となります。 資料21ページをご覧ください。基本目標3の「基本的施策① 多様な世代を誘引する仕組みづくり」です。
--	--

	本年度は新たに重要的支援体制整備事業、在宅医療医療機器及び高齢者難聴用補聴器の購入補助などを開始しています。 22ページをご覧ください。「3－4 健康アプリ」の登録者数は目標値を下回っているものの、上昇傾向にあります。「3－5 介護予防教室（通いの場）の参加者数」については、令和5年度から従来の介護予防教室を住民主体の運動を伴う介護予防活動を行う「通いの場」に変更したこともあり、参加者数が大幅に増加しており、目標値を上回っています。 23ページをご覧ください。「3－7 総合体育館トレーニングルームの年間利用者数」は大規模改修工事のため、令和5年9月から約半年間利用を停止していたため、令和5年度の実績では利用者数が大きく減少していますが、令和6年9月末の利用者数は7,679人となっていることから、令和6年度末では大きく改善することが見込まれています。 資料24ページをご覧ください。基本目標3の「基本的施策② 生涯活躍できるまちづくり」です。 「3-9 認知症サポーターの養成人数」については、増加を続けているものの目標値を若干下回るペースとなっています。 資料1の説明は以上となります。
深谷経営企画部長	それでは事務局からのただいまの説明につきまして、御質問、御意見等ございましたらお伺いしたいと思いますが、質問等ある場合は、恐れ入りますがどこでも結構ですので、ページ数を指定していただいて御質問等お願いしたいと思います。
野々山氏	16ページですが、No. 11「市内の犯罪発生件数」の令和6年の実績値ですが、見込値が602件となっていて、数年前と比べて非常に大きい数字となっていますが、要因として何かあるのでしょうか。犯罪といってもいろいろな犯罪があって、軽犯罪から重犯罪まであると思いますが、どういう点について増加し、実績を見込まれているのか、またそれに対する啓発等の対策もしていると思いますが、何かそういったところをお答えいただければと思います。よろしくお願いいたします。
城総務部長	総務部長の城です。 おそらく9月末が301件ということで、残りの半年を単純に倍にしているのではないかと思います。確認をさせていただきます。 対応について、防犯はやはり力を入れなければいけないところであり、市民の皆様の防犯パトロール隊のお力もお借りしながら、また警察との連携をとりながら、引き続き防犯についてはやっていかなければいけないなと思っております。 先ほどの数字の部分については一度確認をして、またご説明させていただきます。
深谷経営企画部長	ただいま総務部長から申し上げましたように、要因等を確認した上で皆様に改めてメール等何らかの形で御報告をさせていただくということをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
坂田氏	工業経済会の坂田です。 検証ということで、御報告いただきましてありがとうございます。内容を拝見すると、非常にきめ細かく施策を幅広く実施されており、数値、KPIについても高めできているなど率直に感じております。 その中でいくつか今後のことに繋がればよいと思って申し上げるのですが、例

	えば施設の利用だとか、制度の利用の観点で、もう少し人数が増えるといいという項目がいくつか報告の中でありました。 やはりこのみよし市に住んでおられる方が、何をもってみよしに魅力を感じるのか考えたときに、いろいろな制度はたくさん充実しているのですが、それが他の市町に対して、こういったところが恵まれている、こういったところが子育てにとって有用であるとか、自分の市のポジションというのを正しく認識することで、これだけ充実した制度があるのであれば、積極的に広報活動を行うことによって、いろいろな制度の利用が自ずと上がっていくのではないかと感じました。広報や、住人に対する認識をあげる活動というのを、この中にはないかもしれませんが、柱として行うことで、KPIの数字が一對一で上がらないかもしれませんが、全体的に引き上がるのではないかと思いますので、意見としてお伝えします。
深谷経営企画部長	ありがとうございます。我々もいろいろ広報等はしているつもりではありますが、まだまだ十分でない部分というのはあると思います。 他の市町と比べてみよし市はこういったことをやっていますという広報はなかなか難しい部分もあると思いますが、市民の皆さんに対して、みよし市が行っている独自の施策について、様々な方法で、最近はSNS等も積極的に活用してPRもしていますので、これからより積極的なPRができるように考えて参りたいと思います。
坂田氏	行政の立場では、他の市町との比較というのは、非常に言いづらいということでは十分理解していますが、やはり民間で企業を行っていますと、自分のいるポジションというのが幸せ、満足度と連動するところもあります。非常にやり方を気を付けなければいけないのですが、県内ABC市町と比較して、こんな制度が特色である、あるいはこんなに恵まれている、あるいはここは足りないので、10年後に変えていきますといったことを行うと、非常に自分の市町が誇らしくなり、満足度が上がることにもつながると思います。少し踏み込まなければいけないかもしれませんが。
村田副市長	ありがとうございます。 市の行っているサービスの需要と供給のバランスをいまみてもらっているところで、住民の皆さんの負担にならないようなことを進めて、現在積極的にバランスをとりながら進めてきているのですが、やはり市民の皆さんに互換性のあるもの、安心や嬉しいといった気持ちに繋がるような情報発信を自慢するのではなく行ってほしいという意味だと思いますが、その部分はこの計画の中にはでてこない指標だと思います。しかし、何らかの形で考えていきたいと思っています。
曾根氏	連合愛知豊田地域協議会の曾根です。 御報告どうもありがとうございました。非常にたくさんの方をやっていただいている、組合員の方々からも非常にみよし市が住みやすい土地だということは伺っております。 その中で少し質問をさせていただきたいのですが、9ページにありますファミリーサポートセンターの利用者数の目標値についてですが、利用者数が200名程度となっていますが、これはニーズがどれぐらいあるうちの200名ということになっているのでしょうか。ニーズが500名あり、300名の方は我慢しているということなのか、それとも把握をされていないのかというところを教えていただきたい。できればニーズに応えられるような施策をうっていただけるとありがたいです。
加藤こども未来部長	こども未来部長加藤です。 実際のところニーズはあるというところですが、まず目標値の方については、そのニーズを加味した上での設定というところではなく、人数を増やしていきましょうというようなところを踏まえた目標値になっています。そのため、ニーズが500人であるが目標値が200人で300人足りないというようなものではありません。

	ん。 今ファミリーサービスセンターで一番困っているところは、ニーズの把握もですが、まずは市内の人たちにこのファミリーサポートセンターがあるかどうかというところも含めて少しPRが足りないだろうというところですので、そちらを積極的に実施させてもらっています。あとは受け手の方ですが、こどもを預かって欲しい、こうして欲しいというようなニーズがあるというのは認識しているのですが、それを支える側の人数がなかなか充足してきてないというところで、ニーズに対する要望に応えきれてないという部分があります。このPRと支える側の人数が少し不足している、そういった問題が2つあるというところなので、現在この事業を実施させていただいているところになります。
曾根氏	そのように進めていただければいいかなと思いますが、支える側の方々の、やはりどうしても人物調査というか、そういうところは非常に難しくなってくると思います。逆に預ける側としてもその方々の保証みたいなのが今後の心配事になってくるのではないかと思いますので、その点もあわせてお願いしたいと思います。お願いいたします。
野々山氏	先ほど工業経済会の坂田さんの御意見と少し関連するのですが、この総合戦略の主の目的としている地方創生の中で、やはり人口増というのが1つの目的になると思うのですが、その中でいろいろな施策を先ほど御説明いただきましたが、出生についてはなかなか難しい面もあると思いますが、転入転出で、転入して来ていただいた方は、いろいろな要因があつてみよし市を選んでいただいたと思います。その中でどういう施策、例えば子育てとかに少しでも興味を持っていた中で、みよし市を選ばれたというところが、もしあればというので、なかなか難しいかと思うのですが、転入された方について、アンケートじゃないですけど、御意見とかそういうのを1つでもとれる方法があればいいかなと思います。発言させていただきました。
深谷経営企画部長	ありがとうございます。 実は今年度転入者の方を対象に一部アンケートを実施しています。アンケートについては、今回公表はしておりませんが、これからの市としての施策の参考にさせていただくというような形をとっております。また、機会をとらえて、こういったことは継続できればと思っておりますので、また検討結果の御紹介もできる機会があればさせていただきたいと考えております。
近藤氏	近藤と言います。子育てクラブの方から出席させていただいているのですが、全体的に「多様な世代」という言い方が多いような気がしています。当然ですけど、人口を増やしていくためには、人が入ってこないといけないと思いますが、政策に「多様」としてしまうと一つ一つがすごく薄れてしまうような気がします。何か住まれた方にはちゃんとした政策が必要だと思いますが、人を呼ぶのであれば、呼ぶための的確な政策、先ほどおっしゃっていましたが、来てほしい、来やすいというところにもっと特化していくことが必要なのではないかなと少し思います。
深谷経営企画部長	ありがとうございます。 おっしゃる通りだと思います。市としても、例えば子育て施策について先ほど紹介もありましたが、給食費の完全無償化ですとか、こども医療費の無償化等々、そういったことをはじめとして、もちろん既に住んでみえる方にとってますます望まれている、またそういう施策を行うことによって、他市町からもみよし市に行ってみようかと思っただけのような施策を展開しているつもりではあります。近藤委員がおっしゃるのはもっとその対象によって、それぞれに特化した政策を実現してはどうかというような意味合いということでしょうか。

近藤氏	そうですね。僕もけっこうみよし市に住んでいるのですが、住んでいる側としては、いろいろなことに関して、みよし市の政策はすごくいいと思っています。しかし、人を呼ぶ魅力、人が出ていくきっかけ、こういうことは増加減少というのが多分あると思うのですが、なぜ増加したのかということはあまり資料には書いていなくて、なぜ減少したのかということが分かれば、こういう対応をしていけばいいということになります。いまこうやっていろいろな方に多様にと11ページに記載があるように、新たに取り組んだ事業としてこれだけあるわけですが、これは関係ない人にはあまり魅力を感じないかと思います。幅広くすると、一つ一つがすごく薄まってしまうような気がして、人を呼びたいのであれば、人を呼ぶということに関してすごく重きを置いて来てもらう、出産に関してやはりもっと力をいれていくと偏るわけではないですが、何か一つ強みというものを作っていけるといいのかなと少し思いました。
深谷経営企画部長	ありがとうございます。 先ほどちょっとお話の中にありましたように、みよし市から転出された方というのはどういう理由で転出されたのか、逆に先ほど野々山委員からも言われたように、みよし市に転入された方はどういう理由で転入されたのかというのは、先ほどちょっと申し上げましたけど、アンケートをとって一部回答いただいている部分もありますが、それがもちろん全てではないでしょうし、なかなかそれだけで傾向をつかまえるというのも現実問題難しい部分はありました。今おっしゃったような特化した政策ということも、今後当然市としてもやはり目標として設定して、人口を増やしていきたいという考えはありますので、そういった部分については今後も引き続き考えていきたいなと思います。 その他よろしいでしょうか。 続きまして、報告事項（1）「みよし市の地方創生に関する報告」について、事務局から説明をさせていただきます。
事務局	企画政策課の岡田です。よろしくお願いいいたします。報告事項につきましては、まとめて報告させていただきます。着座にて説明させていただきます。 まず、報告事項 ア「みよし市企業版ふるさと納税制度」について報告をさせていただきます。 資料2-1の1ページをご覧ください。 この制度は、一般の個人で行うふるさと納税とは違い、返礼品制度は設けていない形ですが、国が認定した市の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に最大9割の法人税が税額控除される仕組みとなっています。なお、寄附できる企業はみよし市外に本社がある企業に限られます。 令和5年度は4企業から合計220万円の寄附をいただきました。写真は感謝状贈呈式の様子となっています。 2ページをご覧ください。今年度は1月末までで6企業から寄附をいただきました。なお、合計金額を公表することで、非公表としている企業の寄附金額が分かってしまうため、合計金額については、控えさせていただきます。なお、6企業のうち1企業からは物品による寄附であり、いただいた物品は市内小中学校に配布させていただきました。また、2月にも2企業から寄附の申し出がありました。 元々企業版ふるさと納税の制度は令和6年度まででしたが、令和7年度税制改正により、令和9年度まで制度が延長されることとなったため、令和7年度以降も継続して実施していきます。 資料2-2をご覧ください。 企業版ふるさと納税制度を実施するためには、国に認定を受ける必要があります。

す。この資料が国に提出している計画となります。本市は令和4年度から令和6年度までの計画期間として国から認定を受けていました。今回は、期間の延長のために国に変更申請を行います。3ページをご覧ください。目標値につきまして、これまでは令和6年度まででしたが、制度の延長を受けて令和7年度までとしています。なお、令和7年度までとしているのは、本市の第2期みよし市総合戦略の目標年度が令和7年度までとなっているためです。令和8年度以降は、新たに作成する予定の「第3期みよし市総合戦略」の内容に合わせこの計画も変更し、再度国に提出します。

次に、報告事項 イ「SDG s」について活動報告をさせていただきます。

資料3-1の1ページをご覧ください。令和4年4月に募集を開始した、SDG s 推進パートナーについては、先月末現在で82者となっております。今月は新たに2事業者申込があったため、現在は84者となっております。

2ページをご覧ください。本年度の活動状況です。

4月にパートナーの方々の交流会を開催し、グループごとに取組内容の共有を行いました。

その後、5月にオオキンケイギク駆除活動への参加、同じく5月からこの後でご紹介するSDG s コンテスト協賛企業の募集を行い、7社の皆様からご協賛をいただきました。

3ページをご覧ください。

同じく5月には学校給食オリジナルレシピコンテストの協賛企業の募集を行い、2社からご協賛をいただきました。

7月にはパートナーと市の職員協働でSDG s セミナーを開催し、9月にはパートナーである東海学園大学の学生による小学校へのSDG s 出前授業を実施し、同じく9月にはイオン三好で開催されたワクワクSDG s フェアに6団体のパートナーの皆さんに参加していただきました。

先月25日には給食 de SDG s フェスタを開催し、SDG s フォトコンテストの表彰式やワークショップを行い、コンテストの協賛企業やワークショップにパートナーに参加していただきました。

来年度の活動としては、本年度実施の事業と同様の取組を継続して実施していきたいと考えています。

資料3-2「SDG s フォトコンテスト」についてはモニターで説明させていただきます。

まずコンテストの概要について説明させていただきます。

今回の募集作品は、「市内で撮影したSDG s のゴールを意識するきっかけとなる作品」で、市民等を対象に7月から9月まで募集を行いました。

本年度も小学生から多くの応募があり、応募点数は総合計で214点となりました。

審査については、全作品を対象に東海学園大学学生と市の職員で構成されているMIYOSHIみらい創造プロジェクトチーム員が一次審査を実施し、その後、第二次審査として、市の幹部職員で構成する本部会議において「市長賞」「教育委員会賞」を選定し、共催者である東海学園大学、協賛企業7社がそれぞれ各賞の審査を行いました。

ここからは受賞作品です。まず、みよし市長賞が2点、東海学園大学学長賞が2点、小中学生のみを対象とした教育委員会賞が2点、以下、協賛企業賞として、カネヨシ賞、森島製作所のフォレストアイランド賞、豊田信用金庫賞、ひまわりネットワーク賞、特別養護老人ホーム安立荘のハチドリチャレンジ賞、あいおいニッセイ同和損保賞、株式会社シンテックホズミ賞の以上合計13点です。

なお、こちらの受賞者に対しては、先月1月25日土曜日に給食 de SDG s フェ

	スタ内で表彰式を行いました。こちらが表彰式当日の様子です。1人の欠席者を除く12人に授与を行いました。 最後に、SDGsフォトコンテスト作品展をイオン三好ショッピングセンターで1月28日から2月3日まで開催しました。こちらが展示の様子となります。 以上でSDGsフォトコンテストの報告を終わります。
深谷経営企画部長	それではただいまの説明につきまして、御質問、御意見等ございましたらお願いいたします。 それでは、御意見ないようですので、議題の方は終了させていただきます。
典 礼 近藤経営企画部次長	長時間にわたりまして、御審議いただきありがとうございました。 以上をもちまして、第1回みよし市まち・ひと・しごと創生会議を終了いたします。 来年度の創生会議は、新たに第3期みよし市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を行いますので、3回程度の会議の開催を予定しています。 本市の地方創生の推進のため、皆様には引き続きご意見等を伺ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。 本日はありがとうございました。